

進路のしおり

『豊かに生きる』

～それぞれの人生（みち）～



「LINEを2人でしている美紅」

中学部3年

関森 美紅さん

(埼玉県立和光特別支援学校)

<目次>

特集記事	P.1～P.14
「豊かに生きる」を考える	P.1～P.4
卒業生へのインタビュー	P.5～P.7
一人暮らし	P.8～P.10
「おかえり」	P.11～P.12
障害のある方のお金の管理	P.13～P.14
施設紹介	P.15～P.20
進路のしおり28号 アンケート集約	P.21
用語解説	P.22

この冊子は、県内の肢体不自由特別支援関係校が集まって、毎年編集発行されているものです。小学部に入学をし、高等部を卒業するまでの12冊の冊子をご覧になって、日々の、あるいは将来の豊かな生活を送っていただくよう、願っております。第29号では、一人一人の自立についてをテーマに進学や就労、年金等、紹介しております。卒業後の生活について考えるときの参考になれば幸いです。

- 埼玉県高等学校進路指導研究会特別支援教育部肢体不自由特別支援学校小委員会
- 埼玉県肢体不自由特別支援学校進路指導研究会 ● 埼玉県特別支援学校校長会

「豊かに生きる」を考える

社会福祉法人みぬま福祉会 総合施設長 松本 哲

「はじめに」

私は現在64歳。おそらく20代の頃に「豊かに生きるとは？」と問われて答えたことと、64年生きてきて、色々な仲間（障害のある施設利用者）や家族、関係者と関わって積みあがった実感から答える内容とでは、ずいぶん違うものになっています。お恥ずかしい話、20代の頃のイメージする「豊かさ」は物欲に基づくことが多かったように思いますが、今の私は、「豊かに生きる。それは孤独ではない事」と即答できます。

みぬま福祉会を作った40年近く前では、多くの親御さんが「この子よりも5分でも長く生きていたい」と口を揃えて言っていました。でも現実は厳しく、その願いが叶う親御さんはほとんどおらず、多くの親御さんたちが、色々な思いを残しながら旅立っていきました。「この子を守るの自分しかない」という思いがそれを言わせていたのでしょう。自分の親を見送る時に、何人もの仲間たちが素晴らしい親孝行を見せてくれました。母子家庭の仲間は、私たちと一緒にお母さんを見送った後、「松本さん、母ちゃん死んじゃったよ。でも、私は太陽があるから大丈夫」と言ってくれました。また、重い知的障害と自閉症のある息子を持つ父子家庭のお父さんは、亡くなる前日に私を病室に呼んで、「松本さん、俺はもうだめだ。でも自分は息子のことはこれっぽっちもかわいそうとは思っていない。松本さん達がいってくれるから」と伝えてくれました。

「私以外にこの子を守ってくれる、支えてくれる人や場所がある」その実感が親御さんを安心させ旅立たせているようです。仲間たちから見れば、家庭や家族とは別に大切に思える場所や人との出会いと実感が、親御さんを安心させていきます。私は、それが親孝行だと思っています。

～みぬま福祉会「川口太陽の家」～ (生活介護事業所)

JR 東浦和駅から徒歩20分の芝川沿いの幼稚園、小・中・高等学校、短大、大学、スポーツセンター、病院等が立ち並ぶ中心部にあります。

無認可施設の運営から始まったみぬま福祉会が、障害をもった仲間たちの生活や労働を安定したものにしたいと考えて、一人ひとりが当たり前生きていくために、どんなに重い障害があっても「働くことは権利」だと位置付け、一人ひとりにあった労働を模索し続けてきました。無認可施設の始まった年から運動を始め、1986年4月に認可施設【川口太陽の家】を開所しました。2007年12月1日より「知的障害者更生施設(通所)川口太陽の家」から事業移行で「障害福祉サービス事業(生活介護)川口太陽の家」となりました。

川口太陽の家(じゅうに班・サンだいち班・あおぞら班・きらっと班)、川口太陽の家・工房集(めーべ班)は一体運営を行なっています。重度重複の仲間も含めた、車いすの方々も活躍しています。



施設の壁面の青字の「かわぐちたいようのいえ」は仲間たちから募集して選ばれたものを採用しました

「いくつかの出会いから」

今回は、「豊かに生きる。それは孤独ではない事」という思いに至ったいくつかの出会いを紹介したいと思います。

＝死の淵から帰ってきたマスミさん＝

マスミさんはいわゆる重症心身障害という実態の女性です。言葉はなく、日常生活全てにおいて介助が必要な仲間です。でも、なぜか彼女とは馬が合い、車椅子からの抱きかかえの移乗はよく私が行っていました。介助をしながら世間話をするとう彼女も笑顔で応えてくれます。私は、介助の時の抱きごちで、彼女の体調がわかるくらいに関係になっていました。おそらく、体重計で測る重さではなく、緊張や安心感がその抱きごちで伝わっていたのでしょう。

マスミさんが誤嚥性肺炎で入院をしてしばらくするとお母さんから私に一本の電話がかかってきました。「松本さん。マスミから笑顔が消えちゃった。お医者さんから、もう終わりなので本人が一番好きだった人を呼んでお別れをしたほうがいいと言われちゃったの、それなので、松本さんにマスミに会いに来てほしいんです」。早速病院に駆けつけ、ベットの脇までいくと、デスマスクのような表情、視点は定まらず中空を見たままのマスミさんがそこにいました。私は、「マスミさん、松本が来たよ。早く元気にならなくちゃ」と声をかけると、私の声に気づき、視線が戻り、私にいつもの笑顔を向けてくれました。同席していたお医者さんがとても驚き「お母さん、まだ力が残っていますよ!」と伝えると、お母さんはマスミさんの体を揺さぶりながら、「マスミ!、マスミ!、また太陽の家に行かなくちゃ!」と大きな声をかけてくれました。

あれから、30年近くたちました。マスミさんは、みぬま福祉会の身体障害のある仲間のために作った入所施設で穏やかに暮らしています。私が、たまに出かけて行って、施設の中に入ると、マスミさんは遠くにいても目ざとく私を見つけ、笑顔で挨拶をしてくれます。そのたびに私は「マスミさんと仲良くなっているのが本当に良かったね」と心の中で自分に言い聞かせています。



＝「親友」と言ってくれたケンジさん＝

ケンジさんは、年齢は50代半ば。認可施設「川口太陽の家」の一期生で、私と同期の人です。重い知的障害があり、出会った頃は、何事にも自信がなく、年齢よりも幼く見える人でした。

私が執務をする部屋があります。部屋のドアを開けて中に入ると、右側の壁いっぱい、仲間たちが私にくれた寄せ書きや、手紙、作品達が所狭しと飾ってあります。その一番中央に、ケンジさんが私の法人の永年勤続表彰を受ける時に、サプライズで書いてきてくれた私への手紙が飾ってあります。「松本さん勤続30年おめでとう。僕は松本さんと同期です。缶プレス（空き缶を回収してきてつぶして売っていたことです）、せっけん（廃油石鹸作りに一緒に挑戦して、失敗したことです）一緒にやりました。僕と松本さんは親友です。これからも、お話ししたり、相談して関係を深めていきましょう」。この内容がつかないひらがなで書いてあり、表彰式の時に読み上げてくれました。私は彼の思い出が走馬灯のように駆け巡り、思わず泣いてしまいました。後日、彼のお母さんを読んで、壁に飾ってある手紙を見せ感謝を伝えると泣いて喜んでくれました。

彼は、顔を洗うことも怖がるような水恐怖症です。そんな彼が、ある日私の所に相談に来ました。「オリンピックを見ていたら、自分も市の水泳大会に出たくなっただけ」との事でした。学生の頃、子供に水泳を教えていた私は、「松本さんが泳げるようにしてあげる」と約束をして、みんなと一緒にプール通いが始まりました。最初の頃は、プールサイドに腰掛け、足を水につけるだけで、大騒ぎになり、まるで私がいじめているのではないかという周りの視線を感じるほどでした。でも何年か通ううちに、そんなケンジさんが水面に顔をつけて「けのび」までできるようになりました。その時の彼の喜びようは忘れることができません、「松本さん、もう少しで水泳大会に出られるよ!」と喜んでいました。ちょうどそのころ、私は心臓が悪くなり手術のための入院でしばらく太陽の家を休むことになりました。病休が明け、出勤すると久しぶりに会ったケンジさんの表情がとても悪いのです。「どうしたの?」と私が聞くと「松本さん、どうしても松本さんに謝りたいことがある。僕がプール、プールってお願いしたので、そんな目にあわせちゃったの。ごめんなさい」と言ってきてくれました。私は、「あんなに幼かった彼が、こんなに他人のことを思えるようになったんだ」と彼の心の成長に感動しました。私から、「そうではないよ、心臓の手術は辛かったけれど、またケンジ君とプールに行くためにした手術だから、ケンジ君のせいでは全然ないんだよ」と伝えると、彼の表情がソッと明るくなり、みるみるピンク色になっていくのがわかりました。後日、そのことをケンジ君のお母さんに伝えると、「ケンジは松本さんのことを心配して、食事ものを通らなかつたんですよ」と教えてくれました。以前は、何かあるとすぐに相談に来ていたケンジさんがあまり来てくれなくなりました。「何か言って気を悪くしたのかな」と思い、こっそり職員に聞いてみると、「松本さん、ケンジさんは、おれは松本さんとは親友だから松本さんにはあまり心配をかけたくない…とっているんです」と教えてくれました。私の心がとても震える一瞬でした。



＝「松本生きていたか」と言ってくれたナオトさん＝

「大声で暴れる子」…これが学校からの申し送りです。彼と関わって30年以上がたちました。出会った頃はパニックになると、椅子を投げる、机を投げる、グーパンチ、最後は光物を持ち出す…とにかく大変な人でした。私は最初彼に出会った頃「なんてかわいそうな人なんだろう。こんな稚拙な方法で自分のわがままを通すことを学んでしまっただけ」と思いました。何度かは自分の「死」を覚悟し、彼と向き合いました。暴れる彼との取っ組み合い、その後の話し合い。何度繰り返したことでしょう。そのうち、彼が暴れる理由がわかってきました。「わがまま」なのではなく、彼なりの「正義感」だったのです。何度か話合いをしていくうちに、私から「〇〇のことで怒ったの?」と聞くと、「そうそう」と笑顔で返してくれるようになっていきました。「じゃあ、松本から注意しておくから、あなたは我慢できる?」と聞くと「する!」とにっこりしながら返してくれるようになっていきました。いつ頃か、彼との関係はとても穏やかな関係になっていきました。旅行の付添も「自分の付添は松本!」と彼が指名してくれるようになりました。ディズニーランドの旅行では一緒について歩くと彼が苛立つので、私はベンチに座り「ナオト君。松本は一日このベンチにいるから、集合時間は〇〇時なのでそれまでに帰ってきてくだ

さい」と声をかけると、「分かった!」と笑顔で人並みの中に消えていくのですが、よく見てみると、遠くから私を見ていてくれ、私も「わかっているよ」とアイコンタクトを返すとニコニコしていました。

ケンジ君が私に謝罪したその日の事です。自閉症で出勤時間が決まっている彼が、私が出勤すると玄関で待っていてくれました。私の顔を見るなり駆け寄ってきて、私の前でぴたりと止まり、にっこりしながら「松本生きていたか。よかった!」と私の頭をなでてくれたのです。照れ屋の彼は、私の頭をなで、松本が生きていることが確認でき、ほっとしたのでしょう。振り向きもせずに走って行ってしまいました。私は、走り去る彼の背中を見て「30年分のご褒美をもらった」とつぶやいていました。

「ご家族や教員の方へ」

今回取り上げた出会いの三人は、障害がとても重く、太陽の家で30~40年過ごした結果、具体的な行為として出来ることはそんなには増えていません。でも、私から見ると「なんて豊かに生きているんだろう」と思えて仕方ありません。うらやましいような生き方だと思います。「できること」はそんなに増えなくても「わかることが」が増えたからだと思っています。それは、自分の家や家族とは別に自分にとって大切な、失ってはいけない場所や活動、人間関係への自覚です。その自覚が、出会った人たちを優しく励ましてくれています。理解され、優しくされ、大切にされ、感謝された人が他者を思いやり、優しくできる大人になっていきます。実は、その大人は社会を構成するうえで、この上もなく大切な一人なのです。

学校教育の中で、「出来ること」は極力増やしてあげたほうがいいと思っています。その方が自由が増えるからです。でも、人間の発達には、出来ることが増えなくなっても続きます。それは、人格が育つことです。家族、友達、先生との関り、そこで自分に向けられる、理解、評価、眼差しがその人らしさを育てていきます。今回ご紹介した3人は、実践上は支援を受けることが多い人です。でも、それぞれの中で育った人間観や人格、思想や哲学が、少なくとも私を励ましてくれたことは間違いのない事実です。学校教育の中で、数値化しづらいけれど「人格」を育てていく。そう育った一人一人はこれから出会う沢山の人を励ましていく……この視点を大切にいただけると嬉しいです。

思う人のいる幸せ 思ってくれる人のいる幸せ

～プロフィール～

松本 哲[マツモト トオル]

1958年東京生まれ。大学卒業後、生活協同組合職員を経て、1983年神奈川県内の通所施設に勤務。1985年無認可作業所「太陽の家」、知的障害者通所更生施設「川口太陽の家」指導員、1992年「川口太陽の家」所長。

2017年「社会福祉法人みぬま福祉会」総合施設長、法人事務局長。埼玉県発達障害福祉協会副会長他。太陽の家勤務以来、障害の重い人たちの労働や発達保障について取り組んでいる。

著書「その花が咲くとき」(2017年) 出版社 サンパティック・カフェ



(記事担当 澤田)

卒業生へのインタビュー（須藤優斗さん）

～宮代特別支援学校から大学へ、本人とご両親、それぞれの思いを振り返る～

須藤優斗さんのプロフィール…

障害名：脳性まひによる四肢体幹機能障害。

- ・ 地元の中学校卒業後は、宮代特別支援学校高等部へ進学。
- ・ 高等部在学中から大学進学を希望。その後、大学進学を果たし、日本工業大学・建築学部・建築学科に在籍。現在は大学4年生。
- ・ 建築企業への就職が内定し、春より社会人となる予定。



☆須藤優斗さん(本人)に、当時を振り返りながら回答をしていただきました。

Q1: 中学校から宮代特別支援学校へ進学を決めたのは、なぜですか？

他の特別支援学校のコーディネーターの先生が、定期的に中学校へ来てくれ、面談をしていました。自分の障害について、いじめを受けたことを機に、特別支援学校への進学を決めたということもあります。あの頃を振り返ると、人とかかわることも嫌だったし、その時の環境から逃げたかったということもありましたね。一般高校へ行くという選択もありましたが、自分の両親と相談して宮代の高等部へ進学しました。

Q2: 宮代特別支援学校ではなく、一般の高校へ進学していたらと考えたことはありましたか？

もちろん考えたことはあります。きっと何かしらの大学には行っていたと思います…ただ、今の建築学科は選択していなかったと自分では思っています。特別支援学校はバス通学だったので、一般高校に行っている子が電車で帰りながら、好きな所へ寄り道できたことは、当時憧れでした。本当に今思っても羨ましかったですね。今はもうできますけど(笑)

Q3: 宮代特別支援学校に在学中、自分の進路はいつ頃考えていましたか？

入学した時から、大学は目指していました。ただ学費の面で親に負担もかけたくなかったこともあり、一時は就職という進路も考えて迷ったことはあります…でもやっぱり両親は大学進学を推してくれましたね…中学校の時から父にも「大学へ行った方がいい」と言われていたこともありました。ただ、最初の頃は、今の建築関係とは全く違っていたと思います。中学校から CP サッカー*1をやっていた経験もあって、将来的にスポーツトレーナー関係の仕事ができるような大学を考えていたと思います。

Q4: 建築関係の大学を選んだのは、なぜですか？

高2の時に、宮代 OB の卒業生が進路講演に来てくださいました。障害者雇用で一般企業就職をしている車いすに乗っている先輩方でした。その時に通勤や職場、自分の生活についてたくさん話をしてくれたのを憶えていて、『建物が古かったりして、車いす使用になっていないけど、その中で自分なりの工夫をして働いたり、生活もしたりしなければならぬ』と話をしてくれました。そのお話を聞いたことがきっかけとなり、今の進路に繋がったと思っています。一般的にバリアフリーと言っても、建物を作る人や使う人で様々です。僕は、健常者が作るバリアフリーではなく、障害者の立場や目線から発信することで、バリアフリー施設を今よりもっと使いやすいうように設計したいと考えるようになったからです。

Q5:自分の障害から、建築学部を志望するには難しいと考えたことはありましたか？

もちろん！ありました(笑)。最初は、手指に震えもあるし、やっぱり難しいと思っていました。でもオープンキャンパスに行って難しいからあきらめてしまうのではなく・・・『できないなら変えていこう』と挑戦したいと思うようになりました。障害があることが、逆に建築家として活かせるかなと考えていましたね。

Q6:進路について親や学校の先生とどのような相談をしましたか？

高等部3年の、はじめだったと思いますが、どの大学でどの学部・学科か悩みました。進路の先生ともたくさん相談しました。自分はやっぱり建築系は難しいかなとも考えていて、社会福祉系の大学の方が向いているかなとも思っていました。でも・・・最後は、お父さんが『自分のやりたいようにやればいいよ』と言ってくれたので、日本工業大学・建築学部を受験することに決めました。

Q7:大学で、最初に不安だったことはありましたか？

これは2つあります。1つめは大学の授業についていけるかということです。建築学部の学生は工業系高校を卒業している人がほとんどだったので、自分が習っていないこともありました。また、今は PC 製図などでも大丈夫なのですが、大学1年生時は、始めは手書きが基本なので、本当に大変でした(笑)。
2つめは・・・やっぱり友だちができるか不安でした。過去にいじめの経験もあって、特別支援学校に進んで気持ちのリセットのような感じができたのですが、心配もありました。入学した頃には、すでに友だちのグループみたいなのができていて、これはまずいなと焦った時もありました。その後、建築系のサークルに入ることがきっかけになり、同じ学科の友だちができて、段々と友だち関係の輪がひろがりましたね。

Q8:大学生活は充実していますか？

今は、大学の友だちと一緒にバーベキューをしたり、旅行に行ったりと、とても充実しています。コロナの状況はありましたが、大学入学時に思っていた不安より、とても楽しいです。学食で、おぼんで料理を運ぶのが苦手なのも、もう友だちが知っているので運ぶのを手伝ってくれます。大学には、本当にいろいろな人がいて、交流や活動を通してそれぞれの考え方を学べたことが良かったですね。
大学の先生たちも、テストで解答時間を延長してくれたり、マークテストはチェックをしておけば、後で塗りつぶしてくれたり、提出期限を延ばしてくれたりもしました。また、階段に手すりがない所もあって、お願いしたらすぐに取り付けてくれました。
あと・・・(少し照れくさそうに)自慢みたいになってしまうのですが・・・大学3年、4年と最優秀学生賞をもらいました。取れるのが学科で250人位の中、上位3人だけなので、学習にも自信がついたと思います。

Q9:大学では、何か困ったことはありましたか？

(しばらく考えて)・・・なかったですね(笑)

Q10:建築企業への就職が内定するまで、どのように就職活動を行っていましたか？

自分の場合は、建築関係の仕事がしたかったので、一般枠で受けました。障害者雇用ですと、職種のほとんどが事務職しかなかった。あと、自分がやりたいことと違っていただけもあります。企業は、確か4社ぐらい受けたと思います。インターンは10社ぐらい行きました。大学の就職支援課にも相談しましたし、もしも建築関係がダメだったらと考えたこともあります。その時は障害者雇用や建築以外の就職先も考えていかなきゃいけないとも思っていました。就職については、自分から両親に話す程度で、親から「ああしたら、こうしたら」というのは全くなかったと思います。

☆次は、須藤優斗さんのご両親から、当時を振り返り回答をしていただきました。

※こちらはインタビューではなく、アンケートで回答をいただきました。

Q1: 中学校から宮代特別支援学校へ進学する際、ご両親としては当時を振り返り、どのような気持ちでしたか？

社会に出て、身体の事で本人が辛い思いをする事は、予見していました。当時は普通高校に進学して、もちろん本人にとって、辛く大変な思いをするのは承知の上でしたが、親として出来る限りのサポートをして、社会生活を送る為の良くも悪くも(悪い方ばかりですが)経験を培ってもらえたらと思っていました。

Q2: 宮代特別支援学校に在学中、ご両親から本人に何か進路(進学や就職)に関するアドバイスをしましたか？

中学時代から大学への進学はそれとなく進めていました。身体の事で、細かい作業などは難しいので、将来的にはデスクワーク主体の仕事につければ、生活基盤を整えて、自立できるのではないかと話をしていました。

Q3: 宮代特別支援学校に在学中、ご両親同士で本人の進路について相談をしましたか？
(本人が進学か就職かで迷っている時期もありましたが・・・)

確かに迷っていた時期があったみたいですが、夫婦で優斗の将来を考えた時、親はいずれ居なくなります。兄弟が色々と助けてくれたとしても、それが果たして本人の為になるのか？又、本人が辛い思いをする事もあるでしょうが、そんな中でも面白おかしく日々を送って欲しいと考えていました。親としては、ただそれだけの願いでしたので、進路決定については、本人に任せていました。

Q4: 宮代特別支援学校に在学中、本人から“建築学科を志望したい”と聞いた時は、どのように考えていましたか？

親としては、障害者枠での公務員、という願いはありました。本人から、自分の経験を活かして、建築関係に進みたいと相談がありましたが、正直、製図などの細かい作業が出来るのかという、不安でしかありませんでした。ただ、そこは本人が希望している事なので、本人に任せました。

Q5: 大学生活が始まり、ご両親が本人に対して心配していたことは何かありましたか？

新しい環境では、優斗の事を全く知らないのも、嫌な思いをしないか心配でした。

Q6: 本人の意思や努力もあって、自分が希望する建築関係の就職先へ内定しましたが、ご両親としては、本人の就職活動はどのようになると考えていましたか？

正直、障害の事で厳しいのではと思っていました。実際に、ある企業では運転免許証も通常通り取得したにもかかわらず、優斗の運転ではお客さんを案内出来ない！と言われた事もある様です。

Q7: 春から社会人となる本人へ、この先期待していることや応援したいことなどありましたら、お願いします。

こうなって欲しいとかは、ありません。まだまだこの世の中、障害を持っている人には冷たいです。企業やマスコミは、綺麗事ばかりで、普段、生活していて、個々の人レベルですと声に出して文句は言われませんが、無言の視線は、平気で向けてきます。来春から、いよいよ社会人ですが、今まで障害と向き合いながら、色々な人に関わってもらったこと、人と人の縁を大切にしたいと思っています。

Q8: この『進路のしおり』を読まれている在学中のご両親に向け、自分の子どもの進路を振り返り、当時と比べて、今はどのように考えますか？

親として子供の将来を案じて色々と考えてしまいがちですが、本人が希望する進路を考えてあげて欲しいです。

(文責: 柿沼)

一人暮らし ～一度の人生を自分らしく生きる～

吉田 久美子さん

<プロフィール>

1971 岩槻市（現さいたま市岩槻区）に生まれる。脳性まひ。
 1978 越谷養護学校小学部入学。
 1989 宮代養護学校高等部卒業。
 1992 県リハでPCを覚え在宅でCADの仕事をする。
 2002 わらじの会と出会う。様々なスタッフ経験をする。
 2003 越谷で一人暮らしを始める。
 2006 地域デイケア「パタパタ」の常勤職員となる。
 2010 地域デイケア「パタパタ」の施設長となる。
 2012 NPO 法人共に生きる街づくりセンター・かがし座を設立、代表理事となる。
 2013 地域デイケア事業から地域活動支援センターへ移行。
 春日部に引っ越し現在に至る。



<p>① 一人暮らしを始めるきっかけ もともと一人暮らしをしたいという気持ちは抱いていましたが、なかなか踏み切れずにいました。弟には迷惑をかけたくないという思いがあったのですが、直接の一人暮らしのきっかけは、好きな人が出来た事でした。実家が駅から遠かったため、出かけるには親の送迎が必要でした。時間など気にせずデートをしたいというのが一人暮らしに踏み切る原動力になりました。</p>	<p>② 一人暮らし開始までの流れと必要なお金 障害を持っている人が自立生活をしている団体をインターネット等で探しました。友人がわらじの会を紹介してくれ関わるようになりました。自分で稼いだお金で生活していきたいとわらじの会の人に話していた所、働く事に協力してくれました。初めは謝金程度の金額で働いていましたが、少しずつ周りに認めてもらい(一人暮らしの目標を知っていた事もあり)、ある程度の収入を得ることができました。</p>
<p>③ 一人暮らしで必要なお金 <収入として> ・障害基礎年金 ・特別障害者手当 ・給料 <支出として> ・家賃、駐車場代 ・水光熱費(水道、電気、ガス、灯油) ・通信料(電話、インターネット代)・食費(食材など) ・生活用品(消耗品、被服、家具など) ・趣味、交際費 保険…など</p>	<p>④ 一人暮らしに対するご家族の考え 一人暮らしをしたいと常日頃伝えてはいたものの、「まだ早い、どうにかなる」と親は言っていた。一人暮らしが具体的にになると反対され、協力はしないと強く言われたが、本気だということが伝わるにつれ理解を示してくれた。今では私の暮らしも自立していることで、高齢になった両親と良好な関係を築けている。</p>
<p>⑤ 今の生活について感じていること 一人暮らしを始めて20年近くになり、当時の身体の状態と今では違ってきているが、介助の時間を増やしたり仕事を調整などして、今にあった暮らしをしている。日々大変こと(介助の調整や仕事など)はあるが、これからも地域で暮らしていきたいと思う。自分で生活を組み立てていくのは大変な事では！特別な事では！と考えがちになってしまうが、障がいがあるとかではなく普通のことだと思う。</p>	<p>⑥ 一人暮らしのためにつけておきたい力 何事にも興味を持ってほしい。世の中には辛いこともあるが、楽しいこともたくさんある。自分はどんなことが好きでどんなことが苦手かなどは経験しなければわからないことがたくさんあると思うので、様々なことに興味を持ちチャレンジしてほしい。また、こうなりたいということを感じるのと同時に、口に出してほしい。そうすれば周りも動いてくれるはず。</p>

時間	生活スケジュール	支援事業所名/サービス名及び利用時間/支援内容
8:00	起床、朝食、身支度	・SOMPO ケア（月水金） / 居宅介護1h / 身体介護、家事支援 ・わら細工（火木） / 重度訪問介護1h / 食事介助
9:15	自宅出発	自宅から勤務先まで電動車椅子にて移動
9:30	会社到着	・春日部市/全身性障害者介護派遣 6h/日 週2回程度利用/ 秘書的介助
12:30	昼食	
17:30	会社出発	勤務先から自宅まで電動車椅子にて移動
18:00	自宅到着、夕食	・わら細工（月～金） / 重度訪問介護 / 買物、食事準備、食事支援
19:00	入浴	・わら細工（月～金） / 重度訪問看護 / 入浴支援、着替え支援
20:30	就寝	・わら細工（月～金） / 重度訪問看護

- 重度訪問介護（わら細工<春日部市>）サービスの利用：4h/1日
- 居宅介護（SOMPO ケア<越谷市>）サービスの利用：1h/1日（月水金）
- 全身性障害者介護派遣事業の利用（自ら電話等で依頼）：春日部市は64h/月（越谷市は96h/月）以内
- 土日は必要に応じて、全身性障害者介護派遣事業や、ボランティアをお願いしている

☆上記は吉田さんご本人に執筆いただきました。

藤崎 稔さん

<プロフィール>

- 1963 神奈川県に生まれる。脳性まひ。
- 1966 北養護園(現：北療育医療センター)に入所。6歳より北養護学校へ通う。
- 1978 実家(越谷)に帰りあけぼの学園に通う。
- 1979 越谷養護学校高等部へ入学 わらじの会と出会う。
- 1980 スウェーデンに視察旅行をする。
- 1982 越谷養護学校高等部卒業。電動車いす訓練のため県リハへ入所、退所。
- 1983 わらじの会・働くお店「パタパタ」メンバーに。
- 1990 生活ホーム「オエヴィス」入居。
- 1995 生活ホーム「もんでん」に入居。くらしセンターベしみ開所。通所に。
- 1997 パソコンの利用を始め、日記をつける。
- 2001 武里団地(春日部)に転居し1人暮らし開始。
- 2016 わらじの会会長に就任。
- 2020 武里団地を出て「ぶあく」店舗と一緒に戸建に転居。1人暮らし継続中。



日常的にパソコンを駆使し、Facebook、YouTube、LINE 各 SNS にてコミュニケーション、情報発信をしている。

<p>① 一人暮らしを始めるきっかけ ともだちが「わらじの会」にしょうかいをして、うちに会の人たちがきてはなしをしたり、しゃんをみたりした。れいかいに行くようになった。うちだとつまらないから。スウェーデンにいきました。おれは、ビックリした。スウェーデンの障害者は1人暮らしをして結婚をしていたから。介護者は、よぶとすぐにくる、おれもやりたいな。</p>	<p>② 一人暮らし開始までの流れと必要なお金 オエヴィスができて、ひとりぐらししたいと親にはなした。親は「ばかやろう！ひとりぐらしはむりでしょ」って、おれはひとりぐらしをやってみたいんだ！といった。親はダメといいました。おれはおこってハンガーストライキをやりました。妹が電動車いすにのせて家出をしました。それでオエヴィスに入りました。お金はじぶんのためてたお金です。</p>
<p>③ 一人暮らしに必要なお金 生活保護でくらしています。障害基礎年金、特別障害者手当の支給を受けています。</p>	<p>④ 一人暮らしに対するご家族の考え 父母は反対した。妹、弟はさんせい。</p>
<p>⑤ 今の生活について感じていること ひとりぐらしはじゅうじつしてます。でも今の家は住みにくくてこまっている。ひっこしたい。</p>	<p>⑥ 一人暮らしのためにつけておきたいコミュニケーション力、介助者のかくほ</p>

時間	生活スケジュール	支援事業所名/サービス名及び利用時間/支援内容
8:00	起床	・わら細工 / 重度訪問介護 / 身支度、服薬
10:30	自宅出発	・「くらしセンターベしみ」送迎 / 生活介護 / 車による送迎
10:40	通所先到着	・「くらしセンターベしみ」通所 / 生活介護 / 外出活動、春日部市自立支援協議会委員活動、介護等体験実習など学生の育成。身辺介助、通院支援等
12:30	昼食	
	入浴	・事業所 SOMPO ケア、アールスタッフ(火、金) / 居宅介護 / 身体介護、入浴支援(場所は「ベしみ」の浴室を借りて入っている)
18:00	自宅到着、夕食	・わら細工(月～金) / 重度訪問介護 / 買物、食事準備、食事支援
20:30	就寝～翌朝	・わら細工、みっれさいたま(月～日) / 重度訪問看護/就寝準備、体位交換等
土日	日中	・春日部社協/全身性障害者介護人派遣制度/外出 ・わら細工、春日部社協/重度訪問介護/身体介助、生活支援

■藤崎さんは障害程度区分6

■障害者総合支援法のサービス利用

- ・重度訪問介護(わら細工<春日部市>、土屋訪問介護<越谷市>、みっれ<さいたま市>)は410h/月
- ・居宅介護(SOMPO ケア<越谷市>、アールスタッフ<春日部市>)は18h/月
- ・生活介護(くらしセンターベしみ<越谷市>)23日/月

■全身性障害者介護派遣事業の利用(自ら電話等で依頼)

春日部市は64h/月(越谷市は96h/月)以内の利用 *市町村で利用時間等が異なる

■生活保護を受給。家賃の支払い等の扶助を受けている。

☆上記は藤崎さんご本人に執筆いただきました。

【全国自立生活センター協議会（JIL）】

2022年10月27日現在、全国自立生活センターへの加盟団体は全国で114団体です。埼玉県では、お二人が利用している「自立生活センター（CIL）わらじ」以外に、2団体が加盟しています。

JILに加盟しJILの運営に参加できるのは、JILの会員要件を満たすCILだけです。個人やCIL以外の団体は加盟できません。JILへの加盟手続きは、加盟申請書を提出後に常任委員会で会員要件を満たしているかどうか審査します。

■全国自立生活センター協議会（JIL）本部
東京都八王子市明神町 4-11-11 刈刈ビル 大塚1F
TEL:0426-60-7747 FAX:0426-60-7746

<JILへの加盟条件>

- ①意思決定機関の責任者及び実施期間の責任者が障害者であること
- ②意思決定機関の構成員の過半数が障害者であること
- ③権利擁護と情報提供を基本サービスし、且つ4つのサービスのうち2つ以上を不特定多数に提供していること
 - ・介助サービス
 - ・ピア・カウンセリング*2
 - ・自立支援プログラム*3
 - ・住宅サービス
- ④会費の納入が可能なこと
- ⑤障害種別を問わずサービスを提供していること

<埼玉県内のJIL加盟団体>

☆CIL わらじ

住所：春日部市大場 1288-1
電話：048-738-4593

☆自立生活センター所沢

住所：所沢市松葉町 12-3 アーガスヒルズ 58-1 階
電話：04-2001-2981

☆自立生活センター・遊 TO ピア

住所：熊谷市中西 1-1-1
電話：048-526-6760

☆その他（JIL未加盟の類似団体）

- ・NPO 法人ライフアシスト Familish （桜区）
- ・NPO 法人CIL カラット（久喜市）
- ・NPO 法人CIL ひこうせん（行田市） 等



【CIL わらじについて】

お二人の記事から、「CIL わらじ」という団体は、「私たち抜きに私たちのことを決めるな！」のスローガンのもと、当事者主体で活動していることがわかりました。

今から40年程前に重度心身障害者やその親が“わらじの会”を結成し、1980年に福祉先進国のスウェーデンを視察しました。その後「自立に向かってはばたく家準備会」が結成され、1983年には越谷市役所玄関で署名活動を開始しました。

障害者の働く場や暮らしの場ができていく中で、1987年に在宅障害者の入浴介護等のために「わらじの会独自の有料ケアシステム」ができました。それが現在の「ケアシステムわら細工」の前身です。

1998年、県内44カ所の「生活ホーム」のうち、知的障害者の生活ホームは4カ所、肢体不自由者が生活しているのは4カ所（知的と肢体の混在）でした。4カ所のうち2カ所は今も「わらじの会」が運営しています。生活ホーム事業と同時期に介護人派遣事業「ケアシステムわら細工」を設立しました。

【一人暮らしを支える福祉サービス】

1 重度訪問介護

障害者総合支援法の「介護給付」に含まれるサービスです。常に介護が必要な重度の肢体不自由者や重度の行動障害がある知的障害者・精神障害者に対して、身体介護、家事援助、移動支援などを総合的に提供するサービスで、障害支援区分*4 4以上の方が室内外で長時間利用できます。

<居宅における主なサービス内容>

- ・食事やお風呂、トイレなどの身体介護
- ・調理や洗濯、掃除等の家事援助
- ・生活等に関する相談及び助言
- ・その他、生活全般にわたる援助

<外出時における主なサービス内容>

- ・移動中の介護

※さいたま市は24時間、365日利用可能

2 居宅介護

障害者総合支援法の「介護給付」に含まれるサービスです。重度心身障害のため独立して日常生活を営むことが、著しく困難な心身障害児（者）を抱えている家庭に対し、介護負担を軽減したり自立生活を援助したりするためにヘルパーを派遣する事業です。居宅のみで利用できるサービスです。短時間の利用ですが、身体介護や家事介護を行います。

3 全身性障害者介護人派遣事業

県の単独事業で外出時に利用できるものです。利用する前に介護を必要とする障害者と介護者が、先ず市町村に登録しておきます。その利用時間に応じて報酬金額が市町村から介護者に支払われる仕組みになっています。要綱では18歳以上の身体手帳を持つ全身性の障害者で特別障害者手当の支給要件を満たし、脳性まひによる障害の程度が1級を有する人が登録でき、介護者には1時間につき一定の金額が支払われます。但し、サービス提供できる市町村は少ないです。

（文責：堀）

多様な生活スタイルを支えるグループホーム

ケアホーム我が家「おかえり」

さいたま市見沼区蓮沼558-3

2010年4月1日開設 定員4名 (介護サービス包括型)*5



ケアホーム我が家の指針

- ・利用者の命を守り、安心・安全な生活を提供します。
- ・利用者の人権を守り、個々の生き方を尊重します。
- ・職員一同、情報の共有、情報交換に努め、利用者の想いに応えるため努力をします。
- ・私たち職員は指導者でもなく、母親の代わりでもなく、一人の人間が生きていくための支援を提供します。
- ・私たちは的確な支援を提供する為、研修、自己研鑽に努力します。



障害者本人が掲げた思想

- ①障害者は「施設収容」ではなく、「地域」で生活すべきである。
- ②障害者は、治療を受けるべき患者でもないし、保護される子供でも、崇拜されるべき神でもない。
- ③障害者は援助を管理すべき立場にある。
- ④障害者は「障害」そのものよりも社会の「偏見」の犠牲者になっている。

「私たちのことを私たちぬきで決めないで」

ケアホーム我が家は、上記の理念のもと、現在6棟の運営をされています。その中のひとつ「おかえり」では、様々な障害を持つ男性の方々が生活をされています。日中は各々にあった事業所等に通われ、夕方に戻ってきます。その後、部屋でくつろいだり、リビングで仲間と一緒に歌を歌ったりテレビを見たりして過ごされています。皆さん、我が家のようにゆったりと過ごされていました。

《 利用されている方々 》

- ・男性 肢体不自由、脳性麻痺 日中は生活介護事業所に通われています。(40歳)
ラジオやCDを聴くことが好きで、聴きたい曲になるまでCDの交換を要求するそうです。
- ・男性 自閉症 日中は生活介護事業所に通われています。(38歳)
帰宅後は軽食としてゼリーを2個食べ、食事のチェックをすることが日課だそうです。
- ・男性 統合失調症 日中は就労支援事業所に通われています。(52歳)
ホームについていろいろとお話くださった後、お一人で整体院に出かけられました。
- ・男性 ダウン症 日中は地域活動支援センターに通われていました。音楽が大好きで、仲間を繋ぐ懸け橋となるタイプでした。ホームでの豊かで楽しい日々の中、42年の生涯を閉じられました。

《 お部屋の様子 》



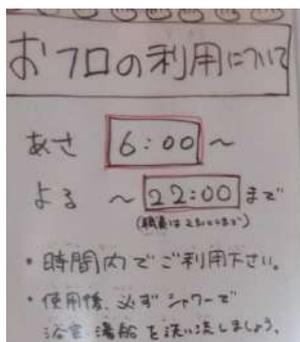
《 お食事 》



職員さんの手作り日替わりメニューが提供されており、利用者さんによると「とてもおいしくて、栄養のバランスにも気を配ってくれているのでありがたいです。」とのこと。また、「全部込みで月の利用料は7万円程度でとってもお得です。」ともおっしゃっていました。

正確には、令和4年度現在「72500～74500円(食費・水道光熱費・日用品費込み)」です。

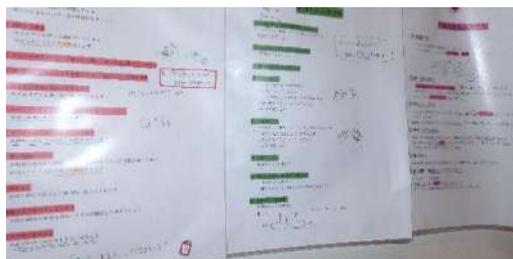
《 入浴 》



利用者さんが希望をされれば、毎日入浴ができるそうです。入浴時間等のルールがあえて手書きで掲示されていて、事業所長の針谷さんによると「民宿的な雰囲気醸し出すことを狙ってみました」とのことです。



そのほか、こだわりの強い利用者さんには、毎日の日程が分かり易く掲示されていたり、利用者さんに併せた介助の方法を職員さんの中で共有されるための掲示が随所にありました。



利用者さん、職員さんともに気持ちよく生活ができるような工夫や雰囲気づくりを感じました。

(文責:千々和)

障がいのある方のお金（財産）の管理

～後見人制度について～

後見人制度って、聞いたことあるけど、なんだか難しそう・・・。

全ての人が、なにかしなればいけないの？



障害のある方のお金の管理について、実際に相談を行っている方にお話を伺いました。

障害のある方のお金（財産）の管理は、どうなりますか？



未成年のうち、親権があるので、保護者が財産管理を行うことができます。なお、成人後も比較的年齢が若い場合は、特に問題がないことが多いですが、親御さんが亡くなられたときや施設に入所するときに、本人に代わって、専門家が、お金（財産）を管理することになる場合があります。

本人以外の方による、お金（財産）の管理には、どういうものがありますか？

障害のある方や高齢者の方の財産管理を第三者が行う方法には、成年後見制度がありますが、その後見制度にも、法定後見と任意後見の2つがあります。（次頁図1）

法定後見制度

法定後見制度は、ご自身での判断が難しい方に対し、家庭裁判所が、弁護士や司法書士といった専門の後見人を選出し、その後見人によって、財産管理が行われるものです。選ばれば家族がなれる可能性もありますが、ほとんどが専門家による財産管理になるため、家族であっても、本人の財産は、使用できなくなります。また、専門家への報酬費用がかかります。

任意後見制度

任意後見制度は、先ほどの法定後見制度とは異なり、高齢者の方は、ご自身で判断ができるうちに自分の意思で後見人を選んでおくことができます。障害のある子の場合、子が未成年であれば親が親権に基づいて、親が子の代理として任意後見契約を締結しておくことができます。後見人には、親自身や、家族、親族を選ぶことができます。つまり、本人の代わりに親や家族が、財産管理を行うことが可能になるため、家族など本人のことを理解している人が障害のある方のために必要な支出を行うことが容易になります。

< 成年後見制度 (図1) >

法定後見

- 家庭裁判所に選ばれた後見人
- 財産管理や法律行為を行う
- 報酬がかかる(専門家の場合)

選任
家庭裁判所
専門家後見人

重要 後見人は専門家が見つことが多く、**専門家の判断で本人の支援**をします。家族であっても本人の財産は使用できません。原則本人が亡くなるまで外れることはないため、報酬費用を支払い続けます。

任意後見

- あらかじめ指定した後見人
- 本人の意志に従った生活支援や財産管理を行う
- 無報酬でもいい

契約
信頼している人
頼れる家族

重要 任意後見契約時には、本人の**判断能力が必要**となります。

子どもに後見人がついて遺産分割協議を行う場合、**親の意向とは異なる結果**となることもあります。

相続手続き以外にも
銀行口座開設、施設の入居など
後見人が必要となる場合があります!!

◎ **保護者へのアドバイス**
きっかけには、預貯金の管理や解約、施設への入所等の契約、不動産の処分など様々あり、銀行や施設等から言われてはじめて知ることもあります。もちろん、後見制度を使わないで財産管理を続けている方もいらっしゃいます。いつどのような時にどんなリスクがあるのか、ご家庭の状況で異なりますので、一度ご家族で話し合われておくともよいかもしれません。

【親権のあるうちにしかできない対策】
親心後見 (親が子どもの後見人に)

1 父が子どもの代理人となり、母を後見人に



2 母が子どもの代理人となり、父を後見人に



- ▼ ポイント ▼
- 親権のあるうちに(2022年4月~18歳成人)
 - 特別代理人の選任必須(2022年1月~)
- *6

お話を伺った施設と担当の方

今回は、川越市にある「絆川越相続センター」の江花さんにお話を伺いました。埼玉県にお住まいの方なら、どなたでも相談可能です。相談料は、原則無料です。また、「親心の記録」も無償で配付しています。詳しいことを知りたい方は、一度ご相談してみたいはいかがですか。

一般社団法人
日本相続知財センター® 川越支部
一般社団法人 絆川越相続センター

TEL 049-291-5530
〒350-1123 埼玉県川越市脇田本町6-9 川越プラザビル5F



こちらの QR コードより個別相談のお問合せができます。



「親心の記録」冊子 理事の江花さん

(文責：大美賀)

分身ロボットカフェ DAWN Ver.β

by 株式会社オリィ研究所

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-8-3

日本橋ライフサイエンスビルディング3

メールアドレス : dawn@orylab.com

詳しくはこちらをご覧ください



今や様々なところで話題となっている#分身ロボットカフェDAWNver.βについて、カフェを運営する株式会社オリィ研究所 広報担当の濱口敬子様にご伺ってきました。外出が困難である人々の新しい社会参加の形として、東京都中央区日本橋に誕生しましたこのカフェの魅力について、お伝えしたいと思います。

「とにかく実際に来て、体験してください！」と濱口様から仰っていただきましたので、この記事をお読みにになりました皆様、是非足を運んでみてはいかがでしょうか。



Orihime

— そもそも分身ロボットカフェって？

株式会社オリィ研究所が運営する、外出が難しい方々が従業員として働く、次世代型のカフェ。「すべての人に社会とつながり続ける選択肢を」をモットーに、個性溢れるたくさんのパイロットの方々がロボットを操作



Orihime-D

— 個性溢れるパイロットの方々ってどんな人？

外出困難者と呼ばれる、SMA(脊髄性筋萎縮症)、ALS(筋萎縮性側索硬化症)、脳性まひ、筋ジストロフィー、うつ病、身体表現性障害などの障がいを持つ方々がパイロットとして働いています。現在、約70名のパイロットの方々が、お客様との会話を楽しみながら接客しています。

— パイロットの方々はどのように働いているのですか？

日本の各地から分身ロボットを操作して働いています。働く日数や時間はパイロットの方々、個々に合わせて働くことができます。例えば、週1時間の方もいれば、1日3時間を週4日の方もいます。本人の心身の調子に合わせてシフトを組んでいます。

当日、急な体調不良でお休みしなければならない場合でも、必ず誰かがサポートに入る体制を組んでいるので、無理なく働くことができます。



お店の外観

— 全国各地で働くパイロット同士の交流はありますか？

仕事に関するミーティングをZoomで行ったり、パイロットの方同士でSNSを通じて連絡を取り合ったりしています。カフェで働きながらロボット同士で会話を楽しんだりしています。

神奈川県で実施された朗読劇は、分身ロボットオリヒメと実際の女優さんが演劇を披露したそうです。その他にも、分身ロボットを用いたスポーツ大会等も行われました。

— パイロット方々へのサポートは？

新規で利用を開始する際など、初めてパイロットとして働く場合は、最初から店頭で接客をするのではなく、挨拶や自己紹介の仕方など基本的なことを「先輩パイロットの真似→先輩パイロットの隣で接客→一人で接客」のように、ステップアップ方式でサポートしています。

— 取材当日に実際に対応してくれたパイロットを紹介します！

		<p>・パイロット：まやさん（SMA：脊髄性筋萎縮症） →ウェ이터として巡回し、お冷の確認だけでなく、食後のテーブルを盛り上げてくれました。明るく気さくな「まやさん」でした！</p>
		<p>・パイロット：ことのはさん（うつ病と偏頭痛） →テーブルのオリヒメから、メニューの説明やイベントの案内までしてくれました！笑い声がとても素敵な「ことのはさん」でした。</p>
		<p>・パイロット：さきさん（ジストニア：不随意運動） →入口入ってすぐに「こんにちは」と元気よく挨拶をしてくれました。丁寧に案内をしてくれた「さきさん」でした！</p>
		<p>・パイロット：みちおさん（身体表現性障害*7） →ウェ이터として、お冷やを持って来てくれました。自己紹介やお店の紹介をしてくれた「みちおさん」です！</p>

★「ことのはさん」のおすすめメニューをいただきました！！

	<p>マイルドビーフカレー & アールグレイ (Hot) ¥2, 530</p>		<p>エビとアボカド & アイスコーヒー ¥2, 508</p>
--	--	--	--

— パイロットになりたいと思ったらどうしたらよいですか？

現在約70名のパイロットが在籍しており、残念ながら新規のパイロットは募集していません。しかし、たくさんの要望やお問い合わせがあり、就労を進めていきたいと考えています。分身ロボットカフェだけでなく、企業の受付等のお仕事にも繋げていきます。まずは、カフェの利用を体験

— 最後に、今年度の進路のしおりは「豊かに生きる～それぞれの人生～」ですが、読まれる方に向けて何かメッセージがあれば教えてください。

勇気を持って様々なことに飛び込み、様々な「出会い」や「生き方」に触れていくことで、その人それぞれ豊かに生きていける。「やりたいことをやれる」選択肢を増やしていくことが、豊かに生きることだと思います。まずは、ぜひ遊びに来てください！面白い空間です！

～遠い未来でなく「今、ここで」できることを楽しみ、やりたいことを実践できる！～

就労継続支援
B型事業所

YUIWORK ゆいワーク

〒340-0012 草加市神明1-7-12 1F TEL:048-945-3466
Email:yui-work@jcom.zaq.ne.jp 代表理事:兼子 博

YUIWORK (ゆいワーク) は就労継続支援B型の事業所で、オリジナルブランド「YUI CHOCOLATE」の製造・販売を行うほか、畑作業など多様な作業を行っています。



オリジナルブランド「YUI CHOCOLATE」



【事業所の外観】

【1日の主なスケジュール】

- 9:00 出勤
- 9:15 朝のミーティング
- 9:30 作業開始
- 12:00 お昼休憩
- 13:00 作業開始
- 15:15 清掃
- 15:30 帰りのミーティング
- 15:45 退勤

☆B型事業所ですが、送迎があります。(要相談)

☆事業所内に和室があり、昼食後等、適宜車イスから降りて休息することができます。

☆個々に応じて、タブレットで商品パッケージを作成する業務もあります。

商品開発や企画に携わることができる！

利用者さんとスタッフとで商品開発ミーティングを行ったり、試食をしたり、あれこれ意見を交わしたり…。最近では、利用者さんが主体となって企画したコラボ案件が決定し、新商品が誕生しました。



仕事もフィールドワークも五感で楽しもう！

チョコレートの製造・梱包・販売の他に、事業所の近隣にある市民農園での農作業も行っています。ここでは旬の野菜を育てており、ゆくゆくは本格的に販売予定です。他にも、人気チョコレートメーカー訪問、近隣の事業所への見学、季節の自然を楽しむフィールドワークなど、五感をフル活用した体験をみんなで楽しめます。



みんなの丁寧な手仕事で、素敵な製品に

コツコツ作業が得意な方は、カカオ豆の皮むきを担当します。ベテランは、高度な技術が要るチョコレートの成型まで行います。色ぬりが好きな方がカラーリングしたぬり絵をパッケージにして、完成！皆さんの丁寧な手仕事から、素敵な製品が生まれます。



Bean to Bar
YUI CHOCOLATE



オリジナル Bean to Bar
YUI CHOCOLATE

卒業生へのインタビュー(小嶋佑梨江さん)

～仕事と休息を考えたオーダーメイドの進路実現 自分らしい生活をカスタマイズ!～

【はじめに】

小嶋佑梨江です。私は地域の吉川小学校に3年生まで通い、4年生から埼玉県立越谷特別支援学校に転校して9年間、先生方には大変お世話になりました。色々な先生と出会い、友達が沢山できたことが嬉しかったです。

パッケージデザインの制作 →

【仕事について】

私は、月・水・金で草加市にある就労継続支援B型事業所「YUI WORK」に通っています。施設の送迎車で通勤しています。主に、iPadを使い、チョコレートのパッケージデザインをしています。iPadでぬり絵をしたものが、チョコレートのパッケージになっているので、もし良ければネットでチョコレートを買ってくれたら嬉しいです。私は、進路先が二か所で、火・木は越谷市にある生活介護事業所「ゴールデン座」に通っています。ゴールデン座は、季節によって色々な行事があったり、料理をしたり、ゆっくりと過ごしています。母が迎えに来るまでの間は、テレビにユーチューブを繋いでヒプノシスマイクの曲を流しながら、仕事のパッケージデザインをやっています。仕事を頑張る日とレクなどを楽しみゆっくりする日と、一日おきでいい感じです。



【趣味や休日の過ごし方】

休日は、月に二～三回土曜日にボッチャの練習ができるのが、嬉しいし楽しいです。私がボッチャにハマったのは、中学二年の時に担任の先生がランプオペレーター*8になってくれて、相性が良いというか、試合でもスムーズに投球ができることが嬉しいのと、投球がうまくいけばいくほど爽快感に浸れるからです。これからも試合で勝てるように練習を頑張ります。パラリンピックに出ることが夢です。あと今ハマっているのはヒプノシスマイクです。お給料でグッズを買ったり、ゲームをしたりしています。ライブにも行きたいです。

【後輩たちに向けたメッセージ】

色々なことに挑戦しながら、たくさんの施設を見学すれば、きっとやりたいことが見つかると思います。自分に合った所を見つけて楽しい職業に付けるように頑張ってください。

【保護者様より】

コロナの為、施設見学や実習が思うようにできない時期もありましたが、その中で娘のやりたいこと、やれることを担任の先生や進路指導の先生、本人と相談しながら進めていきました。「仕事をしてお金を稼ぎたい。デザインが好き。」という思いがあっても、娘は全介助が必要で話すこともできないので、B型事業所を希望するに当たっては母子通所を覚悟していましたが、現在施設送迎で職員さんが全て介助してくれています。とても有り難いです。将来は一人暮らしも目指して、色々な可能性を信じて、共に成長したいと思っています。



昼食の様子↑
社会見学(豊洲「チーム・ラボ」)↓



(取材担当:杉田)

施設 紹介

日高市 特定非営利活動法人カリン 多機能型事業所 ごんたやま

- 所在地：日高市猿田240
 - 電話：042-978-9070
 - 施設長：石川 憲夫 さん（元特別支援学校教員）
 - 設立年月日：令和4年4月1日
 - 事業内容：生活介護、就労継続支援B型、
短期入所、日中一時支援
- ☆B型では、菓子製造、雑誌の付録の分解、
農作業など
- ☆医療的ケア 応相談
- ☆車椅子乗車の送迎あり
- ☆現在利用者は、19歳から70歳まで



【天井からぶら下がったブランコ、大型トランポリン】

- 名称の由来を教えてください
関連するグループホームに「ごんた」という保護犬がいて、飼ってからいいことばかりあったので、あやかろうとしました。
- 大切にしていることはなんですか
利用者様が自分たちでやりたいことを大切にして、臨機応変に対応したいです。
- 構想はいつからですか
3年前から。生活介護は15時までのことが多く、17時まで日中一時支援をできる施設を作りたいかったです。
- 建物の特徴はなんですか
一番広い訓練作業室は、面積が92.72㎡で、天井を高くしたかったので平屋建てにしました。ほかは2階建てとなっています。
- 設立に必要なことは何でしたか
県庁の許可をとるための書類作りで、生活介護・短期入所・就労継続支援B型は別々に許可が必要で、1年かかりました。スタッフを集めること、具体的な事業計画、リハビリ、ダンス、絵画の先生に依頼するなどしました。土地は施設長が所有していた農地を、除外申請して宅地にしました。



【この日はダンスの先生がいらして、みんなで嵐の『ハピネス』で踊っていました】

（文責：小林）

施設 紹介

「すべての利用者様の一日一日を大切にします」

生活介護事業所

社会福祉法人はぐくむ会

第二はぐくみ園



基本理念に基づき利用者様を大切にされている寄居町の社会福祉法人はぐくむ会において、今年の4月に第二はぐくみ園が移転し、リニューアルオープンしましたので紹介します。

大きい窓が多く、明るく開放的な施設内では、利用者様の希望に応じ、様々な作業や活動ができるようにしてあります。スタッフの人数が多く、建物が口の字型の構造になっているため、様々な場所から複数のスタッフが利用者様を見守ることができ、安心できる活動環境を提供しています。



建物の中央にある中庭。
車椅子でも入れます。



椅子に座る形で入浴支援
を受けられます。



機能訓練の部屋です。
理学療法士の助言のもと、
利用者様一人一人の状況
に合わせて訓練を行います。
床暖房があります。



作業はボールペン
組立やおしぼりた
たみ、陶芸、空き
缶回収などのリサ
イクル活動ができ
ます。

1日のスケジュール

- 8:15 スタッフが送迎に出発
- 9:30 利用者様、園に到着
- 9:45～ 朝の会
(バイタルチェック、体操)
- 10:00～ 午前中の活動
- 12:00～ 昼食・休憩
- 13:00～ 午後の活動
- 15:00～ 帰りの会
- 15:30～ 帰宅送迎開始

活動には、作業、機能訓練、入浴支援、クラブ活動などがあります。

クラブ活動は好きなところに任意加入でき、音楽クラブ、おやつクラブ、工作クラブ、健康クラブ、読書クラブ、園芸クラブがあります。

社会福祉法人はぐくむ会 第二はぐくみ園 <https://www.hagukumukai.jp/facilities/hagukumi02/>

住所：埼玉県大里郡寄居町末野508-1 電話：048-580-2211 FAX：048-580-2212

問い合わせ担当者：課長 町田 隆

事業内容：生活介護（定員20名：現状では若干名の利用者様の受け入れ相談可です）

営業日時：月曜日～金曜日 9:30～15:30（不定期で土曜日・祝日も開園）

受け入れ可能な障がい者：特に障がい種による制限は設けておりませんが、安全に支援ができるかを
確認させていただいた上で受け入れをさせていただきます。医療的ケアの
ある方につきましては、看護師が常駐しておらず、対応ができません。

送迎：個別相談にて検討いたします。遠方の場合は、送迎車が迎えるところまでご家族の方の送迎が
必要となります。

スタッフ：サービス管理責任者1名、生活支援員18名（半日勤務のスタッフもおります）

理学療法士が半年に1回くらい来園（要請により年間3～4回程度来園します）

費用：入浴（座位が可能な人向けの機械浴あり：車椅子乗車の方、身体が不自由な方が利用可）無料
食事（通常食のほか、刻み食、ムース食、アレルギー対応の食事也可です）1食460円

（文責：佐藤）

令和3年度「進路のしおり第28号」アンケートから

貴重なご意見を多数いただきありがとうございます。お一人でも多くの方の声を掲載させていただきたいと考え、あえて枠組み等を付けず記載させていただきました。ご了承ください。

今回は、《参考になった記事》の御意見の一部を掲載させていただきます。

- ・卒業して元気に過ごしている様子が分かり、嬉しいし羨ましいです。「卒業後の行き先探し」はとても参考になりました。又、施設紹介も毎回楽しみにしています。
- ・利用者の方の声がとても参考になった。また、小・中・高と将来に向けての流れがわかりやすかった。
- ・「てとて」を選んだ理由として、保護者の方の心情や選ぶ際の基準を知ることができてよかった。
- ・「小学部から、それぞれのステージでできること」「卒業後の生き先探し」はとても参考になりました。施設紹介も毎回楽しみにしています。
- ・「埼玉県重症心身障害児（者）を守る会」の要望書提出の結果。「命あるパートナーとの生活」介助犬の介助動作、対象（物）が小さくても介助犬としての動作ができること。
- ・定番の施設紹介がすごくありがたいとともに、新たな分野の情報もありがたいです。
- ・事業所の紹介→1日のスケジュールや浴槽の写真などがあって、色々とイメージがしやすかったです。
- ・特別支援学校における進路指導の考え方の文中「（行政・相談機関・事業へ）要望はダメもとでも必ず口に出しましょう。〇か×かではなく、可能性の糸を紡ぎましょう」
- ・卒業後の生き先探しをしていくうえで、この記事を読み不安な気持ちが少し和らぎました。子どもの持っている力、どう生かせるか考えていきたいです。
- ・比較的、家に近い施設しか知らないことが多いので、施設紹介はそれぞれの特徴が分かり易くてよかったです。たとえ通えなかったり候補に入らなくても、施設選びの際にとっても参考になると思いました。
- ・深谷のタイムライフの記事です。在住地区では医療的ケアのある子どもは、放課後等デイも日中一時支援も行くところがありません。親は片時も離れることなく、長期休みも常に気を抜かず一緒にいます。新しい情報が知れてありがたかったです。
- ・アトリエ・アンノウンが前から気になっていました。おしゃれな雰囲気でもちベーションも上がりそうです。実際に通うとなると遠いので、近くにこのようなところがあればいいなと思いました。
- ・子どもが小学校に上がり、初めて学ぶことばかりでとても参考になりました。卒業後どのように進むのか具体的に考えることができました。
- ・「陽」の施設紹介は、とても興味深かった。チャレジョブさんの活動や施設設備等もっと知りたい。
- ・ゆかりの木の紹介記事です。生活介護の利用者兼スタッフとして働いているところです。仕事内容や1日のスケジュールが詳しく紹介されていてとても参考になりました。
- ・まはろ和光南の紹介。住んでいる地区の範囲なのでイメージがわきました。
- ・いろんな施設があり、仕事もできたりするんだと思った。
- ・生活介護事業所でも、ICTを活用した作業があるのだと知ることができた。
- ・利用者さんの保護者の声がとても参考になりました。
- ・進路の考え方、まだ小1なので全く分からずためになりました。
- ・介助犬の役割を知ることができました。
- ・写真つきの施設紹介など。
- ・用語解説が役に立つ。
- ・「アトリエ・アンノウン」「ゆかりの木」の記事を読み、自分の得意なこと、好きなことを仕事として過ごせる施設があることを知り、とても参考になった。
- ・卒業生の言葉や仕事内容や休日の過ごし方、メッセージ等が参考になった。
- ・進路指導の考え方。高等部になって焦らないように、小学部、中学部でいろいろ考えていきたい。
- ・様々な身体の状態によっていろいろな場所があるのだと改めて思い、我が子に合う場所が見つければいいなと改めて思った。
- ・体験の内容や気持ちも書いてあった点。
- ・施設紹介が詳細でイメージしやすかった。



埼玉県マスコット

「さいたまっち」「コバトン」

(担当：千々和・佐藤)

用語解説

*1 (P5) CPサッカー

「脳性まひ者7人制サッカー」の通称。CPサッカーの「CP」は英語の「Cerebral (脳からの)」「Palsy (麻痺)」の略で脳性まひという意味になる。英語表記では「CP Football」とされている。

*2 (P10) ピアカウンセリング

ピアカウンセリングは1970年代初め、アメリカで始まった自立生活運動の中でスタートした。自立生活運動は、障害を持つ当事者自身が自己決定権や自己選択権を育て合い、支え合って、隔離されることなく、平等に社会参加していくこと目指している。

ピアカウンセリングは、自立生活運動における仲間(ピア)への基本姿勢のようなものであり、お互いに平等な立場で話を聞き合い、きめ細かなサポートによって、地域での自立生活を実現する手助けをする。

*3 (P10) 自立支援プログラム

国が2005年度から各実施機関へ導入を促している制度である。

近年の被保護世帯の抱える問題の複雑化や被保護世帯数の増加に伴い、これまでの被保護者の方に対する経済的給付を中心とする制度から、実施機関が組織的に被保護世帯の自立を支援する制度に転換することを目的としている。

各実施機関では、3つの自立(就労自立、社会生活自立、日常生活自立)に向けた支援プログラムを幅広く用意することが推奨されている。

*4 (P10) 障害支援区分

障害者総合支援法におけるサービス利用申請に対する支給を障害や心身の状態等により必要な支援を1～6段階に分けた区分である。

1が支援の度合いが低く、6がもっとも高くなる。受たいサービスによって区分認定が必要な

ものとそうでないものがある。基本的には、介護給付は区分に応じた利用、訓練等給付および地域相談支援給付は区分に関わらず利用できる。

区分認定は認定調査員による区分調査と医師の意見書などを根拠とした一次判定と審査会による二次判定により決定される。

*5 (P11) 介護サービス包括型

共同生活援助(グループホーム)のサービスの形態。食事の用意やお風呂、トイレの介助などの生活支援をグループホームの職員が提供する。

＜サービスの主な内容＞

- お風呂、トイレ、食事等の介護
- 調理、洗濯、掃除等の家事
- 日常生活、社会生活上の相談及び助言
- 就労先やその他の関係機関との連絡
- その他の日常生活上の援助

*6 (P14) 特別代理人

主に成年被後見人や未成年者のため家庭裁判所家庭裁判所に一時的に選ばれる法定代理人のこと。

通常、成年被後見人の法定代理人は成年後見人であり、未成年者の法定代理人は親権者である。法定代理人は本人に代わって契約や遺産分割等の法律行為を行う。その法定代理人と本人の利益が相反するケースで登場するのが特別代理人になる。

*7 (P16) 身体表現性障害

身体症状症とも言う。自覚症状に見合う身体的異常や検査結果がないにもかかわらず、痛みや吐き気、しびれ等多くの身体的な症状が長い期間にわたって続く病気のこと。

*8 (P18) ランプオペレーター

以前は競技アシスタントと呼ばれていた。ボッチャの競技において選手が自身で投球できない場合、ランプ(勾配具)という道具を使用し、狙い、ボールのチョイス、距離感をランプオペレーターの伝え、自身はボールをリリースすることでプレーを成立させている。

埼玉県内肢体不自由特別支援学校 12 校
高等部卒業生の進路状況

年度 項目	R1	R2	R3
就労	0	1	1
在宅就労	1	2	1
訓練	1	0	0
訓練等給付	15	10	9
介護給付	86	75	78
地活等	1	0	0
進学	1	1	1
在宅	8	1	2
計	113	90	92

新学習指導要領の改訂に関する講義を聞いた今から7年前、AIなどの技術革新により30年後には今ある仕事の6割がなくなり、新しい仕事が見れるという話を聞いて実感が湧かずにいました。しかし、新型コロナウイルスにより生活様式が大きく変わりました。通信機器の発達によりどこの場においても仕事ができ、学ぶことができる世の中になりました。国内だけでなく、海外の方たちとも簡単につながることができます。それは障害のある子どもたちも同様です。学ぶ場も働く場も学び方も働き方も、さらには仕事の内容も、個々のニーズに応じて選ぶことができるようになりました。予測のできない未来に向かって子供たちが自分らしく生きていくためには、子供たちに限界を作らず、飽くなき挑戦を支援できる叡智が私たちには必要なのです。子供たち一人一人の人生を豊かにする担い手としてこの『進路のしおり』を引き出しのひとつにさせていただけたら幸いです。終わりに編集に携わった皆様に衷心より感謝いたします。それぞれの人生が笑顔で満たされることを願って。

(越谷特別支援学校長 小池 八重子)

多くの方々にご協力をいただきまして、進路のしおり29号が完成しました。心より感謝申し上げます。今号は『豊かに生きる～それぞれの人生～』というテーマで作成をしております。一人一人の子どもたちが生涯を通じて豊かに生きること、今を未来へつなぐという願いを込めて作成をしております。改定があった学習指導要領の大きな目標である社会に開かれた教育課程の実現に向け、関係機関での切れ目のない支援を推進する中で、個々に応じたオーダーメイドの進路を実現できる、そして一人一人の生き方指導をしていけると実感しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。記事に対するお問い合わせ等がございましたら、右記にある各校の編集委員までご連絡ください。

(編集委員 杉田 聡)

【就労】

就労数は就労(通勤を伴う)と在宅就労を明記就労、在宅就労は特例子会社への就労を含む

【訓練】

国立職業リハビリテーションセンター、東京障害者職業能力開発校などの職業訓練機関

【訓練等給付】

就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型、自立訓練(機能・生活訓練)などの日中活動

【介護給付】

生活介護、療養介護の日中活動や施設入所
※福祉サービスの併用利用は各々でカウント

【地域活動支援センター(地活)等】

心身障害者地域デイケア施設も含む

『進路のしおり』第29号

発行日 2023年3月9日

<編集・発行>

◇ 埼玉県高等学校進路指導研究会特別支援教育部会
肢体不自由特別支援学校小委員会

◇ 埼玉県肢体不自由特別支援学校進路指導研究会

高橋 盛也 県立和光特別支援学校
048-465-9770

堀 喜代司 県立宮代特別支援学校
0480-35-2432

小林 将典 県立日高特別支援学校
042-985-4391

澤田 秀一 県立川島ひばりが丘特別支援学校
049-297-7753

田野 尚之 県立熊谷特別支援学校
048-532-3689

佐藤 勉 県立秩父特別支援学校
0494-24-1361

杉田 聡 県立越谷特別支援学校
048-975-2111

大美賀 了 さいたま市立ひまわり特別支援学校
048-622-5631

今泉 恒星 富士見市立富士見特別支援学校
049-253-2820

柿沼 宜夫 県立蓮田特別支援学校
048-769-3191

石橋 勇太 県立所沢おおぞら特別支援学校
04-2951-1102

千々和一億 さいたま市立さくら草特別支援学校
048-712-0395

<印刷>



埼玉県社会福祉事業団
あさか向陽園

〒351-0016 埼玉県朝霞市青葉台1-10-6
TEL 048-466-1411 FAX 048-467-4127